



鬼丸裁判官(前列中央)を囲んで

広報委員会市民交流部会

最高裁判所見学会に参加して

広報委員会委員 氏森 政利 (61期)

1 はじめに

広報委員会市民交流部会では、毎年、一般公募の方法により募集した30名ほどの「市民メンバー」と、月に1回程度、裁判所・検察庁・弁護士会・刑務所（本年度は府中刑務所）・法科大学院（本年度は早稲田大学法科大学院）等の司法関連施設の見学会、裁判傍聴会、弁護士との懇談会等を開催し、弁護士と市民の方々との交流を通じて広報活動を行っています。

その活動の一環として、2013年11月12日、最高裁判所見学会を開催しました。当日は、21名の市民メンバー、9名の広報委員及び山内一浩副会長の総勢31名が参加しました。

2 最高裁判所庁舎見学

当日は秘書官の方から講堂において最高裁判所の概要等について説明を受けた後、まず正面玄関、大ホール、図書館（休館日につき入口のみ）、大法廷と順に見学しました。高名な建築家である岡田新一氏らの設計による最高裁判所庁舎内は、「西洋中世において裁判が森の中で行われていたことから、森の中をイメージして設計されている」との秘書官の方のご説明のとおり、天井のあちこちから天然光が木漏れ日のように降り注ぐ、静謐かつ荘厳な空間であり、参加者からは幾度となく感嘆の溜息が聞こえました。また、市民メンバーは、大ホールに存置されたブロンズ像や大法廷のタペストリー等を熱心に見学され、秘書官の方のご説明に聞き入っていました。

3 鬼丸裁判官との懇談

続いて、第二小法廷に移動し、当会出身で弁護士から最高裁判所裁判官に任官された鬼丸かおる裁判官よりお話を伺いました。今回は、まず鬼丸裁判官より毎日のスケジュールやお仕事の内容、やりがいやご苦労等についてお話をいただいた後、市民メンバーから事前に募集した質問に回答していただく形で進められました。

最高裁全体の処理件数から計算すると、最高裁判所の裁判官は、概算で一人当たり1年に約700件もの事件を主担当として処理するとのことで、鬼丸裁判官も執務室で一日中訴訟記録の検討を行っている日が多いとのこと。そのような多忙な毎日の中でも、「他人の人生を自分の事件として取り組むことができる。こんなにやりがいのある仕事はない」として、精力的に執務をこなしておられる鬼丸裁判官のお話に接し、同じ法律家としても大変感銘を受けました。

4 おわりに

今回の最高裁判所見学会も、これまで同様、大変充実した内容となり、参加された市民メンバーからも多くの反響が寄せられています。見学会の実現にご協力いただきました鬼丸裁判官、最高裁判所事務局の皆様、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

また、今後、一人でも多くの会員が、市民の方と直接接することができ、今回の見学会のような貴重な経験をすることもできる市民交流部会の活動に、ご関心をお寄せいただき、さらにはご参加いただければ幸いです。